

週報

こひつじ

第40巻 4号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

あなたはわたしを愛するか

イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか」（ヨハネ二二の一七）

その一 求められていることは一つ

イエスは三度、ペテロに問われ

なぜか。

「あなたはわたしを愛しますか」

である。

人がイエスを愛するとき、他の

と。

われわれに求められているのも、多くの場合、人生もまた単純でこれだけだ。それ以外のどんな戒律も求められていない。イエスに対する愛があれば、それでよいと言われている。

キリスト教は、いわゆる道徳教ではない。規律や規則を求めない儀式を求めない。求められているのは、ただ一つ、イエスへの愛だけである。

必要なことはわずかです。いや、一つだけです」（ルカ一〇の四二）

そして、言われた。マリヤは良いものが一つある。しかもそれは、いっぽうを選んだのだと。彼女はただイエスの足もとでイエスの言葉に耳を傾けていたのである。

あなたが人間であるためにどうしてもなければならない一番大切なもののです。それが何だかわかりますか」

クラークは、日本人の教師がたくさん規則書をもつてきたとき、

くさん規則書をもつてきましたとき、すると、学園長は答える。

規則づくめで教育はできない。私の教育方針は一つだ。そう言って、「Be gentleman!（紳士たれ）」という教育方針をあげた。つまり自分

の良心に恥じない生き方をせよ。それだけでよいと。

クラークは彼らの名譽心に訴えられたのである。それは多くの学生たちに感激をもつて受け入れられた。「主を恐れることは知識の初めで

ここからすぐれた人材が生まれた」と言われている。

そこからすぐれた人材が生まれたと言われている。

では、家庭で子どもを育てるときはどうか。これもまた、たくさんのはいらない。一つでよい。

イエスがマルタとマリヤを訪ねられたとき、マルタはもてなしで

忙しく、心を騒がせていました。すると

「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても

身に備えて生まれてきます。それ

を発展させるのが教育です。しかしこれも持つて生まれることのないものが一つある。しかもそれは、

その人が人間であるためにどうしてもなければならぬ一番大切なものです。それが何だかわからりますか」

ヴィルヘルムが返答に困つてい

た。「畏敬です。上なるもの、周囲に

あるもの、そして下なるもの、つまり神と人と自然への畏敬です」と。

この畏敬がなくて、教育は成り立たないというのが学園長の考え方だつたのだ。

聖書も言う。

立たないといふのが学園長の考え方だつたのだ。

畏敬の念を与える。それさえあれば、彼らは正しく導かれるだろう。

クリスチヤン生活も同じである。

明治の頃、木村清松という牧師が、F・Bマイヤーをロンドンに訪ねた。そこを去ると木村牧師は玄関先で言つた。

「マイヤー先生、ぜひ、日本のク

リスチャンのために何か言葉をください。その言葉を日本のクリスチヤンにおみやげとして持つて帰りたいのです」

F・Bマイヤーといえば、当時、世界でもっとも有名な説教家のひとりだった。彼の聖書講解書は、今も世界各国の言葉に翻訳されて読まれている。

この世界的説教家が、どんな言葉をくれるだろうか。木村牧師は期待をふくらませて待っていた。

木村牧師は、あまりに単純なその答えに驚いたことだろう。したがつてイエスも、たくさんのこととを要求されない。

「イエス様には『はい』と言いなさい」(Say "Yes" to Jesus.) 司会は合志文利さん、奏楽は吉岡裕美さん。

説教は第一サムエル記九章からサウルと預言者サムエルとの出会いについて話しました。

木村牧師は、あまたに単純なその答えに驚いたことだろう。

ペテロの人生は、そのことにか

かつていたからである。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
○教会学校は午前一〇時から。
○説教は林田はるかさん。

先週の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
○教会学校は午前一〇時から。
○説教は林田はるかさん。

報告

礼拝参加者は、第一礼拝が三八名、第二が四二名、合計八〇名(男二八、女五二)。それに子どもが九名、合わせて八九名でした。

先週の出席

礼拝参加者は、第一礼拝が三八名、第二が四二名、合計八〇名(男二八、女五二)。それに子どもが九名、合わせて八九名でした。

ところが限部さんはていねいな返事をくださったのです。それは母についての文章に感動したこと、そしてキリスト教に関心があることなどが書かれていました。

そこでぼくの書いた本を送ると、

すが、弟はすぐに静岡に帰ったため、返事をするのはぼくの仕事となり、お礼の文書に加え、告別式で私が語った母についての文章もいつしょに送ったのです。お礼ですから、返事は期待していませんでした。

牧師身辺

生涯を終えたことでしょう。

ところがサウルは、その出会いによって歴史の舞台に登場します。東京在住の隈部章子さんという人

が、訪ねてきました。

何年か前、ぼくの母が亡くなつたとき、県外に住む弟の同級生たちからも香典が送られてきたので

まだ不思議な出会いです。

一月二六日(金)に弟の同級生で

紹介したのです。彼女はすぐに行つてくれました。やがて信仰をも

ち、今では熱心に教会に通つてい

るそうです。そこで熊本に帰つた

ら、ぼくをどうしても訪ねたいと

いうので、同級生五人とともに来てくれたというわけです。これも